

令和3年度 学校自己評価表 （年度当初）

鳥取県立倉吉総合産業高等学校

教育目標	1 誠実な心を育て、たくましく生きる力を養い、個性豊かな人間形成を図る。 2 実践的な学習をとおして、創造する喜びを体験するとともに自主・自律の態度を養う。 3 様々な教育活動をおとして、他人を思いやり、友情を育み、さらに心身ともに健全な態度を養う。 4 望ましい勤労観・職業観を育て、地域産業を支える人材を育成するとともに地域の発展に貢献する。
------	--

重点目標	1 心身ともにすこやかな生徒の育成 2 生徒の夢や希望をかなえられる学校づくり 3 地域に愛され、信頼される学校づくり 4 専門教育の推進
------	--

年度当初				
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策
1 心身ともにすこやかな生徒の育成	基本的生活習慣の確立とマナーの徹底【生活部】	・『あいさつ』『時間』『身だしなみ』の三点を中心に、基本的生活習慣の確立を目指して取り組んでいる。概ねできているようだが、高いレベルでの確立についてはまだまだ意識の低さを感じる。 ・礼法・遅刻・整理整頓の指導をおとして、生活を整える習慣を身につけさせたい。	・年間の『防げる遅刻』回数を20回以下とする。（昨年度は38回） ・校内外で、明るく気持ちのよい、心のこもったあいさつができる。 ・学校アンケート（保護者）の『基本的生活習慣の確立』と『あいさつ』の項目の1・2評価の平均を90%以上とする。（昨年度は87%）	・時間を守ることの意義を伝え、理解させる。 ・今まで以上に、授業や部活動、SHR、集会等であいさつの大切さを生徒に伝える。 ・生徒会執行部、学科、部活動と連携して、『あいさつ運動』に取り組む
	部活動・生徒会活動の奨励【生徒部】	・今年4月時点の部活動等加入率（1年94% 2年93% 3年98%） ・生徒会執行部の学年別構成（1年0人 2年6人 3年19人） ・執行部会は生徒会行事前にもみ開催 ・学校生活アンケート結果（昨年7月→12月）学校行事に楽しく参加協力できた 81%→90% 部活動に積極的に取り組んでいる 87%→82% ・生徒部生徒会担当による「指導」「誘導」が目立つ	・加入率の引き上げ（従来は、部活動加入率で評価していたが、今年度は執行部加入も含めてカウントし、加入率95%以上を目標とする） ・執行部への1.2年生の積極的参加 ・生徒会執行部会およびクラブ運営委員会の定例化&活性化 ・生徒自身による主体的な体育祭・学校祭の企画運営	・部活動未加入者への執行部・学校実行委員会への参加呼びかけ ・LHR等での学年レクでの執行部員の活用 ・会議の定例化と、Googleクラスルームの活用 ・他校の学校祭の見学や執行部との交流の推進
2 生徒の夢や希望をかなえられる学校づくり	進路指導の充実【進路部】	・具体的な進路目標を定めているが、目標のために何をどのように取り組めば良いか計画できない生徒が多い。また、基礎学力の定着や文章力、表現力が十分身についていない。 ・就職希望者支援体制についてはできているが、進学指導に関しては、個別指導による部分が多い。特に4年制大学への進学指導については大学固有の入試制度の研究など大学個別の理解と対応が必要である。	・計画的に進路行事を実施し、キャリア教育を充実させる。 ・小論文指導等の進学希望者に対する支援体制を充実させる。 ・年度内に就職内定率を100%とする。	・進路意識を持たせるため、進路講演会、進路学習会、進路説明会、進路LHR等を実施、職業観・勤労観の育成に努める。 ・大学入試に関する情報収集を行い、入試改革に対応した指導を、学習指導委員会で提案していく。 ・進路部と学年団・各科との連携を密にするとともに、学力分析や指導方法について検討していく。 ・12月から2年生の進路指導に取り組み、2月学年末考査後には具体的な進路実現に向けて行動できるよう、計画的に個別に指導していく。 ・新型コロナウイルス感染症に対応するため、職場見学、オープンキャンパス、試験に向け、ICTを活用していく。 ・定着指導・求人依頼・企業開拓のため、進路部を中心に県内の企業を積極的に訪問し企業や産業界の情報を収集し、共有する。
	将来のスペシャリストの育成（資格・検定の取得やインターンシップ）【進路部】	進路部で資格・検定を推進している。生徒は積極的に各科で目標としている資格・検定に挑戦している。 多くの生徒がインターンシップ・デュアルシステムをおとして正しい職業観を養っている。	・更なる資格取得を意欲的に取り組ませる。 ・全ての生徒が正しい職業観を持ち、就職及び進学の準備を早くから行えるように、低学年から進路意識の向上とインターンシップ・デュアルシステムの充実をさせ、勤労観・職業観を育成する。	・資格取得・上級資格取得のための計画的で充実した補習を実施する。資格試験の情報提供を行う。 ・多様な進路選択を可能にするためにも資格取得にチャレンジするように促す。 ・インターンシップ・ビジネス実習の事前・事後指導を徹底・充実する。
	進路に対応できる学力の定着【教務部】	・基本的な学習規律は身についてはいるが、生徒の基礎学力や学習意欲に大きな差がある。定期考査や資格取得などに関する学習には意欲的であるが、それ以外の家庭での学習時間は少ない生徒が多い。 ・授業時間数の偏りが生じている。 ・自習時間は減っているが、売り買いボードの活用状況は十分ではない。 ・進路に応じた選択科目の履修ができるよう見直しているが、新学習指導要領に向けての検討も含め、引き続き見直しを行う必要がある。	・学習習慣が定着し、基礎学力の向上が図られている。 ・生徒全員の家庭学習時間が平日1時間以上、休日2時間以上となっている。 ・授業時間数が確保され、自習時間が削減されている。 ・進路に応じた選択科目が適切に履修されている。	・基礎力診断テストの学習状況調査を活用し、家庭学習の充実を図る。 ・各教科で課題の出し方を工夫し、学校全体として家庭学習を促進し、習慣化するよう取り組む。 ・時間割の入れ替えや授業の売り買いを積極的に行い、授業が自習時間とならないように取り組む。 ・選択説明を丁寧に行い、進路希望に合った履修を促す。
	思考力・判断力の向上【教務部】	・生徒は落ち着いてはいるが、反面、主体的に学習に取り組んだり、自ら考え判断し、自発的に行動したりすることができる生徒が少ない。	・思考力や判断力の育成のために、課題探究的な学習や対話的な学習活動が実践されている。 ・達成感や自己肯定感を持った生徒が多い。	・問題解決にむけて、思考・判断に必要な知識や情報を蓄積させる。 ・授業公開や授業互見、教職員研修会をおとして学び合いを促進し、授業改革を行う。 ・新学習指導要領に対応した新教育課程の検討をはじめ。 ・学校生活の中で、生徒が活躍できる機会を増やす。
	地域とともにある学校づくり（学校運営協議会）【管理職】	・昨年度、地域が誇れる学校を目差し、学校の情報発信とともに地域の人材やアイデアの活用するために学校運営協議会を立ち上げたが、年2回の開催にとどまり、委員の方に学校に関わっていただく場面が限定的で、本来のコミュニティースクールの有り様としては物足りない。 ・学校運営協議会の委員をはじめ、地域の方に対しての具体的な情報発信が少ない。	・地域の方の関わりが増え、地域が誇れる学校に近づいている。 ・多くの生徒が各分野に長けた地域の方と関わり、進路意識の高揚と地域貢献への思いを強く持っている。	・学校カレンダーを始め、行事予定や主要な行事の要項等を運営協議会の委員に配布し、委員の方が学校に足を運びやすい状況をつくる。 ・ホームページ等による情報発信及び情報更新を頻度高く行うとともに、行事予定や要項等を協議会の委員に提示していく。加えて、学校運営協議会での意見を適宜、教職員や生徒会に提示ながら、スピード感をもって改革につなげていく。
	地域への情報発信（積極的な広報活動）【総務部】	・ホームページの更新が遅く、情報の発信が少ない。学校についての情報提供が不足している。	・ホームページの更新が頻繁に行われ、常に学校行事や各科の学習活動・部活動の大会状況が配信されている	・学校行事について、積極的に総務部から各担当者にホームページへの掲載を依頼したり、ライブ配信によって生徒の様子を発信する。また、新聞社やテレビ局などマスコミにも適宜情報提供をする。

年度当初				
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策
3 地域に愛され、信頼される学校づくり	地域・産業界との交流 【各学科】	M ・企業名は知っているが、その企業の業務内容などについては知らない生徒が多い。 ・企業見学やインターンシップなどを実施するが、十分な理解には至っていない。	・企業見学、インターンシップ、社会人講師等をととして、自分の希望する企業について業務内容などを理解している。 ・社会にでた際、資格取得が重要であることを理解している。	・企業見学、インターンシップ、社会人講師等で産業界での取り組みや意識を知る機会を設ける。企業見学については、コロナ感染拡大にそなえ、Webで対応できるよう準備しておく。
		E ・鳥取県電業協会中部支部との共同作業で、倉吉交流プラザにイルミネーションを取り付け、地域に貢献した。 ・「電気をととして福祉を考える」の活動について、地区民生委員の方と鳥取県電業協会中部支部と連携をし、地域に貢献した。	・イルミネーションの取り付けなど、地域産業との交流が図られている。 ・地域の方々との交流や事業所との連携から、地域住民との交流が図られている。	・鳥取県電業協会中部支部との意見交換会でイルミネーション設置について、アイデアの提案等を行う。 ・「電気をととして福祉を考える」の活動前後で民生委員、鳥取県電業協会中部支部、教職員・生徒との意見交換を行い連携をとる。
		C ・新型コロナウイルス感染拡大の影響から、課題研究「くらそうや」「くらそうサロン」、就業体験学習「ビジネス実習」「インターンシップ」の実施回数が減少した。	・課題研究「くらそうや」「くらそうサロン」、就業体験学習「ビジネス実習」「インターンシップ」を通して、地域の方々との交流や事業所との連携から、地域産業の理解が深められ郷土愛が育まれている。	・課題研究「くらそうや」「くらそうサロン」、就業体験学習「ビジネス実習」「インターンシップ」は、新型コロナウイルス感染症予防をしっかりと実施しながら、新商品の開発等学習内容の充実に努めていく。
		D ・意欲的に交流しようとしているが、どう楽しんでも参加してもらうかという視点が弱い。計画を立てるまでに至っていない。	・交流する相手の事を考えて計画を立てられるようになる。 ・異年齢の方々と交流することにより、コミュニケーション能力が高まっている。	・施設の方や社会人講師方の意見を伺いながら、交流の計画を立てる ・学習した知識や技術をいかし、生徒が主体的に行動できるよう具体的な例示を示しながら指導する。
	グローバルな人材の育成 （世界規模で考え、地域で行動する人材） 【各学科】	M ・日頃の学習内容は理解できているが、それが地元の産業と、どうつながっているかまでは理解できていない生徒が多い。	・地元企業がグローバルに活躍されていることを知り、学ぶことの意識が高まっている。	・地元企業が製造されている部品が、産業界にどれだけ貢献しているか伝える。
		E ・新型コロナウイルスの関係で長期インターンシップを行うことができなかったが、通常のインターンシップにおいて、生徒の就労意欲が高まり、基本的な技術を身につけることができた。	・インターンシップをととして、就労意識が高まり、キャリア教育に対しての取組の向上が見られる。	・事前の安全教育を行うことで就労を意識する。 ・インターンシップ最終日は各企業が学校に集まり、生徒に対して一斉の研修を行う。
		C ・新型コロナウイルスの感染拡大の影響から、就業体験学習「ビジネス実習」「インターンシップ」の受入事業先が少なくなっており、やむなく希望に合っていない実習先で体験する生徒がいた。	・生徒が希望する事業所での体験を通し、積極的に実習に取り組み、人間力と進路意識の向上が図られている。	・就業体験学習「ビジネス実習」「インターンシップ」の受入事業先の新規開拓をする。 ・事前・事後の指導を徹底充実させる。
		D ・学校での学習を地域の産業にどのように活かしたらよいか、理解できていない生徒が多い。	・地域産業について理解でき、自分たちが学習したこととの成果などを、発信することができる。	・「企業見学」や「先輩に学ぶ」を実施する。企業等と連携し、「商品開発」を行う。
4 専門教育の推進	専門分野の基本的知識・技術をもち、チャレンジ精神に富んだ人材の育成 【各学科】	M ・昨年度は初めて挑戦する資格に積極的にチャレンジした生徒もいたが、まだまだ受け身の生徒も多い。	・積極的に資格取得に取り組み、合格に向けて努力できている。	・生徒が資格取得に積極的に向かうよう呼びかける。 ・資格を取得することで達成感と自己肯定感を感じさせる。
		E ・鳥取県電業協会中部支部に高校生ものづくりコンテストの指導を受け、2名の生徒が中国大会出場権を獲得した。	・高校生ものづくりコンテストにおいて上位に入賞している。	・鳥取県電業協会中部支部の指導を受け、技術の向上を図る。
		C ・ほとんどの生徒が資格取得に積極的意欲的に取り組み成果を出している。 ・生徒間に著しい学力差がみられ、一斉授業に苦心している。	・資格取得に向けて計画的に努力し、チャレンジ精神を養っている。	・可能な限り、習熟度別や少人数の授業展開をしていく。 ・長期休業中や放課後に課外授業を実施し、上位級取得目標の生徒や学力不振生徒に対応していく。
		D ・意欲に個人差があり、取り組み状況がさまざまである。	・検定試験を積極的に受験する。また、コンテスト等に応募している。	・検定受験、コンテスト等への参加を促す。
	学科の枠を超えた取組の実践 （総合選択制） 【各学科】	M ・総合選択制を活用し他学科の科目を積極的に履修するよう働きかけができています。（A選択・電気基礎・アプリケーション演習）	・将来を見据えた適切な科目選択ができています。 ・機械科以外の科目について学ぶことも重要であることを知る。	・自分の進路を見据え、自科のカリキュラムでは学べない内容を総合選択制を活用し習得するよう指導する。
		E ・くらそうやにおいて、「おもちゃの病院」及び「商品提供」を行うことができなかったが、課題研究「テクニカルボランティア」においては、おもちゃの修理を行うことができた。 ・家庭学科の車椅子修理をするなど、他学科と連携することができた。	・くらそうやに電気科として「おもちゃの病院」及び「商品提供」ができています。	・課題研究「テクニカルボランティア」をととして「おもちゃの病院」を行う。 ・電気工学部と連携して「商品提供」を行う。また、課題研究の中でもアイデアを出して、商品作成を行う。
		C ・課題研究「くらそうや」において、他科から販売商品を提供してもらっている。 ・総合選択制の他科選択「コミュニケーション演習」や「アプリケーション演習」で、ビジネスマナーや基礎的なワードやエクセル操作を習得している。	・課題研究「くらそうや」の商品を提供する他科に、消費者の反応や意見をフィードバックすることで、ニーズある商品作りに活かされている。 ・ビジネスコミュニケーションの知識や技能を習得し、学校生活で実践している。	・課題研究「くらそうや」にて、消費者と積極的にコミュニケーションをとり、商品に関する感想や意見を丁寧に聴く。 ・総合選択制の他科選択「コミュニケーション演習」「アプリケーション演習」「ビジネス基礎」の魅力を伝え、履修を促す。
		D ・ビジネス科と連携し、くらそうやへ商品提供を行っている。	・くらそうやに商品の提供している。 ・工業学科とも連携を行っている。	・他学科との情報交換を積極的に行い、連携の方法を模索する。
5 業務改善の取組	長時間の時間外勤務者の解消 【管理職】	・学校全体の時間外業務について昨年度は平成29年度比50.3%減と大幅に減少したが、個々を見ると、月45時間、年360時間を超える教職員は少なくない。改善が必要である。 ・部活動自体は県のガイドラインや本校の規定に従って運営されているが、複数顧問の役割分担が不十分で、時間外が多くなっている教職員は多い。	・全県における時間外業務の上限である月45時間、年360時間を遵守する。 ・複数顧問の業務分担を意識し、毎月の部活動計画を早めに作成しながら各々の顧問の時間外業務が月45時間を超えない。	・衛生委員会等を活用しながら、各々の時間外業務の内容を分析し、その原因について対応を講じる。 ・勤務時間の割振の徹底や長期休業中の休暇取得に対する呼びかけを行い、時間的な時間外業務の量だけでなく、心身のリフレッシュ及びストレスの軽減を行う。

A〔90%以上〕 B〔89～70%〕 C〔69～50%〕 D〔49～30%〕 E〔29%以下〕